

アーケオプテリクスは、げんざい化石がみついているなかで、いちばん古いじだいの鳥です。そのからだはどんな色をしていたのでしょうか？

アーケオプテリクスはきょうりゅうからしんかした鳥で、そのからだはウロコではなく羽でおおわれています。きょうりゅうのなかにも羽をもつものは多く、羽にはいろんな役目があったようです。（そらをとぶため、からだやタマゴをあたためるため、モテるためなど）



そらをとぶ



さむくてもホカホカ



メスにモテるあざやかな羽

アーケオプテリクスが生きていたばしょは、サンゴしょうにかこまれた、あたたかいみなみのしまだったようです。海近くの木々の中をとびまわっていたのなら、みどりやちゃいろのほうがかめだたずにうまくかくれられそうですが、魚をつかまえてたべていたとしたら、おなかやあたまはうすい色のほうが、明るい水めにまぎれて魚から気づかれにくそうです。



けしきになじむ



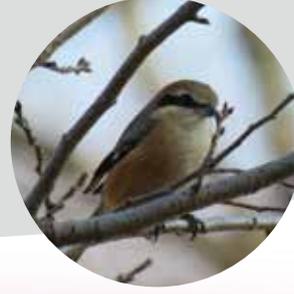
ひかりにまぎれる



2012年、アーケオプテリクスの1まいの羽の化石から、その羽が黒い色をしていたしょうこがみつかりました。全身まっ黒だったかどうかはわかりませんが、つばさには黒いところがあったはずです。



つばさに黒い羽がある鳥もいろいろ



アーケオプテリクスが生きていたころのすがたをそうぞうしてあなたのかんがえるオリジナルの色でぬってみよう！